

様式第3号（4条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

平成28年度 第1回 図書館協議会

2 開催日時

平成28年6月10日（金） 午後7時から午後8時30分まで

3 開催場所

松川町資料館 視聴覚室

4 出席者氏名

図書館協議会委員

坂本勇治委員（森谷岩夫委員、熊谷宗明委員代理）、有賀稔委員、

岡村匡人委員、松田真人委員、中繁彦委員、田中ふじえ委員、

木村佳稔委員、森下励子委員、宮下千波委員、林直子委員、大澤ユリ子委員

事務局

高坂敏昭図書館長、小木曾雅彦生涯学習課長、青木貴子主任

5 議題（公開又は非公開の別）

(1) 平成27年度 統計報告について

(2) 平成28年度 事業計画について

6 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

7 傍聴人の人数

0人

8 会議資料の名称

- ・ 図書館協議会次第
- ・ 図書館協議会委員名簿・職員および図書部員名簿
- ・ 平成27年度 松川町図書館統計 4種
- ・ 平成28年度 事業計画
- ・ 平成28年度 事業計画 補足資料

9 審議の概要

- 1 開会
- 2 図書館長挨拶
- 3 委員長挨拶
- 4 協議事項（会議内容）

【説明】

- (1) 平成 27 年度 統計報告について

資料「平成 27 年度 松川町図書館統計 4 種」及び写真に基づき、事務局より説明。

- (2) 平成 28 年度 事業計画について

資料「平成 28 年度 事業計画」・「補足資料」及び写真に基づき、事務局より説明。

【質疑】

1. 貸出・利用状況について

（事務局）

- ・貸出冊数含め、図書館利用が減少傾向である。
- ・18 歳以下の子ども、特に 0～12 歳の利用が減少している。30 代以上の大人の利用は増加傾向にある。

（委員）

- ・利用者から一番目につくカウンター前に人気図書を置いていることや、時勢に合った図書展示をしている点は、読書推進として良いと思う。
- ・子どもが幼いうちは親子で図書館を訪れることも多いが、成長するにつれ図書館に足を運ぶことは少なくなる。
- ・読書というと物語を読むというイメージが強いが、趣向が多様化する中でそのような形の「読書」に興味を持たない人もいるのではないか。
- ・理系、運動系の方は、手段として「本を読む」という発想があまりないように思える。
- ・スポーツに力を入れている子どもがスポーツのスキルアップ本などを図書館で借りて読んでいる姿も見受けられる。大切なことは子どもたちがいかに色々なものに興味を持てるかであり、図書館で本を提供することはその興味を拾い・広げる役割とも考えられる。

（事務局）

- ・「読書推進」「本を読む」という面をアピールすることはもちろん大切であるが、そうしたアプローチでは響かない人も多くいると考えている。しかし普段は読書や図書館に興味がない人でも、図書館に来館すれば、仕事・趣味・生活を豊かにする道具としての本と出会えるかもしれない。まずは多くの人に足を運んでもらえるよう「図書館に行ってみよう」と思ってもらえる企画・運営を行っていききたい。

2. 資料保管・書架整理について

（委員）

- ・補足資料にもあるように、開架・書庫いずれも蔵書数が収蔵数を超えている状況が見受けられ、日々の資料を探す業務にも影響が出ていると思われる。適切な除籍も必要であ

るが、より多くの本を保管できるような方向で考えてみてはどうか。

(事務局)

- ・今年度より、毎月最終水曜日の作業に、従来の開架の書架整理作業に加え、書庫の整理・除籍作業を行なうために作業人数を1名増員した。しかし除籍できる資料はさほど多くない上、毎週の受入や寄贈により図書は確実に増えている状況であるため、現在の作業と並行して、書架の増設も前向きに検討していきたい。

3. 平成29年度7月の南信州図書館ネットワーク図書館システム更新について

(委員)

- ・南信州図書館ネットワークについて、参加館の間での予約本の移動や受取はスムーズになったが、現状、その本を借りた図書館でしか本を返せない。どの館でも自由に返却できる仕組みになっていないが、今後変化はあるか。

(事務局)

- ・どこでも返却できる仕組みについては、今年1月～4月までネットワーク館で話し合いを重ねたが、現状はすべての館で運用できる準備が整っていない状況であると判断し、平成29年度7月の図書館システム更新に併せての採用については見送った。引き続きどのような利用者サービスが展開できるか検討を行っていきたい。
- ・現状は、各社システムの視察や情報収集を行い、参加館で検討を重ねている段階である。
- ・読書推進活動の一つとして多くの図書館で取り入れている読書通帳・手帳について、当館でも導入を検討している。システム更新時の導入を目指し、事例研究・準備を進める。

4. 児童サービスについて

(委員)

- ・新規事業である、上片桐児童館に訪問しての「放課後おたのしみ会」は、以前より課題となっていた松川北小学校生徒と松川中央小学校生徒のサービスの地域格差を解消する事業として評価できる。

(事務局)

- ・4月より開始した月1回の「放課後おたのしみ会」は、毎回20名以上の参加があり、生徒も楽しんでいる様子である。今後も継続していきたい。また、6月2日に行った今年度の「えほん講演会」は、学校の協力により、松川中央小学校・松川北小学校両校で開催することができた。

5. よみきかせボランティアについて

(委員)

- ・今年度より松川中央小学校でのよみきかせボランティアの活動が動き始めているが、人数が足りていないためボランティアを増やしていく必要がある。また地域の中で、大規模ではないが、よみきかせグループを立ち上げたいと考えている人達も出てきている。そうした活動をサポートできるような体制を町や図書館で組み立ててほしい。

(事務局)

- ・図書館としては、今年度から、初めてよみきかせを行う人も参加できる「よみきかせ初心者練習会(仮)」の開催に向けて準備を進めている。なお一昨年より開催している「子どもと本の勉強会」も継続していく。今後、より地域の活動に役立てるよう、2つの講座のあり方・内容を考えていきたい。

6. 中高生の利用について

(委員)

- ・統計資料から、依然として13~18歳の図書館利用が少ない状況が見受けられる。今年度の事業計画には「児童サービス」「大人向けサービス」の項目しかないが、今後「中高生向けサービス」とした独立した項目で計画し、注力してみてもどうか。

(事務局)

- ・一般的に最も読書離れが進む年代と言われ、当館でも一番利用が少ない年齢層であるため、図書館側としてもサービス計画の優先度が低くなってしまっていることは反省点である。また、土日の学習室利用などで中高生の来館は以前より増えているように見受けられるが、図書館へ来ることが、読書や図書利用に結びついていない状況である。

(委員)

- ・中高生は日々の勉強・受験対策・部活動などに忙しく追われている。そうした状況の中で、あまり本に興味がない生徒に新たに読書を勧めるより、いま図書館に通っている生徒や読書が好きな生徒に対してフォローを続けていく方向のほうが現実的ではないか。
- ・児童書も一般書も読める、難しい世代である。司書がおすすめ本を紹介するのはどうか。
- ・ちょうど進路を考えはじめる時期となり「〇〇になるには」というような将来の職業をイメージする本を借りている中高生も見受けられる。こうした職業や将来のイメージにつながる本を置いてはどうか。
- ・大人から子どもまで、誰もが自由に来ることができて、自由に時間を過ごすことができる、「居場所」としての図書館の機能も大切である。

7. 広報活動について

(委員)

- ・はじめて来館する人向けの新しい図書館案内は、わかりやすく、良いと思う。
- ・松川町図書館の開館時間数は近隣市町村の図書館の中でもトップクラスであるが、夜間や祝日開館していることを知らない住民も多い。この点だけでもアピールになるのではないか。また、こうした松川町図書館らしさをうまく見つけて広報していくと良い。
- ・チャンネルユーで、図書館案内や、図書館の取り組みをもっと放送してみてもどうか。

(事務局)

- ・より多くの人に図書館を知ってもらえるよう今後も積極的に広報活動を行っていきたい。